

国際生物多様性の日記念フォーラム

「市民が見守る地域の生物多様性」-市民科学の可能性を考える-

5月22日は国際生物多様性の日です。2020年の愛知目標の達成に向け、国際社会、そして地域社会も様々な取り組みを行っています。石川県は2011年に生物多様性地域戦略を策定し、生物多様性の保全のため多様な主体の参画をすすめてきました。金沢市も2016年、金沢版生物多様性地域戦略を策定し、キーププロジェクトとして市民ウォッチャー制度の運用を開始するなど、地域の生物多様性モニタリングへの住民参加の促進を図っています。

自然豊かな金沢市では、従来から市民活動、地域活動として自然観察・保全活動が様々な団体により行われてきました。学校教育に目を向けると、石川県全域では、45年に亘り小学生によるツバメ調査が行われており、金沢市においても小学生によるホタル観察会事業が30周年を迎えました。これらの長年にわたる地域の取り組みを振り返り、そして新しくはじまった取り組みや先端技術との融合の可能性も踏まえながら石川、金沢ならではの市民の生物多様性へのまなざし、生物多様性モニタリングへの参加のありかたを、専門家を招いて議論します。

- ✦ 日時：2017年5月14日（日） 午後13:30-16:00
- ✦ 場所：金沢市文化ホール3階 大会議室
- ✦ 主催：国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット（UNU-IAS OUIK）
- ✦ 共催：金沢市
- ✦ 後援：石川県、石川県立自然史資料館

ご登録ウェブサイト <http://ouik.unu.edu/events/1173>

メールでのご連絡 unu-iasouik@unu.edu

電話：076-224-2266

までお名前、連絡先、ご所属をお知らせください

プログラム

13:30-13:40 開会の挨拶：金沢市、主催者（OUIK）

13:40-14:25 基調講演：「生物多様性市民科学における市民と科学の協働」

鷺谷いづみ 中央大学教授

14:25-14:45 事例紹介：「市民参加で東京のチョウを調べる」

須田真一 中央大学理工学部

14:45-15:00 コーヒーブレイク

15:00-15:55 パネル討論：

市民が見守る地域の自然―見守る心を育むための制度と技術を考える

モデレーター：永井三岐子 UNU-IAS OUIK

パネル①：武藤 俊充 金沢市環境局 環境政策課 主任主事

パネル②：平野 賢次 ふるさとのツバメ総調査検討委員

パネル③：関戸 正彦 大学門前町ホテルの会・田上公民館館長

コメンテーター：鷺谷いづみ氏、須田真一氏、古池博氏（特定非営利活動法人石川県自然史センター理事長）

15:55-16:00 閉会



鷺谷いづみ

中央大学理工学部人間総合理工学科保全生態学研究室教授

東京大学理学部卒業、東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。理学博士。筑波大学生物科学系講師、助教授、東京大学大学院農学生命科学研究科教授を経て、2015年から現職。みどりの学術賞、日本生態学会功労賞などを授賞。里山や水辺の生物多様性の保全と再生などに関する幅広い研究や普及活動を行っている。



須田真一

中央大学理工学部人間総合理工学科保全生態学研究室協力研究員

東京農業大学農学部、建設省土木研究所（現、国土交通省国土技術政策総合研究所）環境部緑化生態研究室、東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻保全生態学研究室、中央大学理工学部研究開発機構を経て、2017年より現職